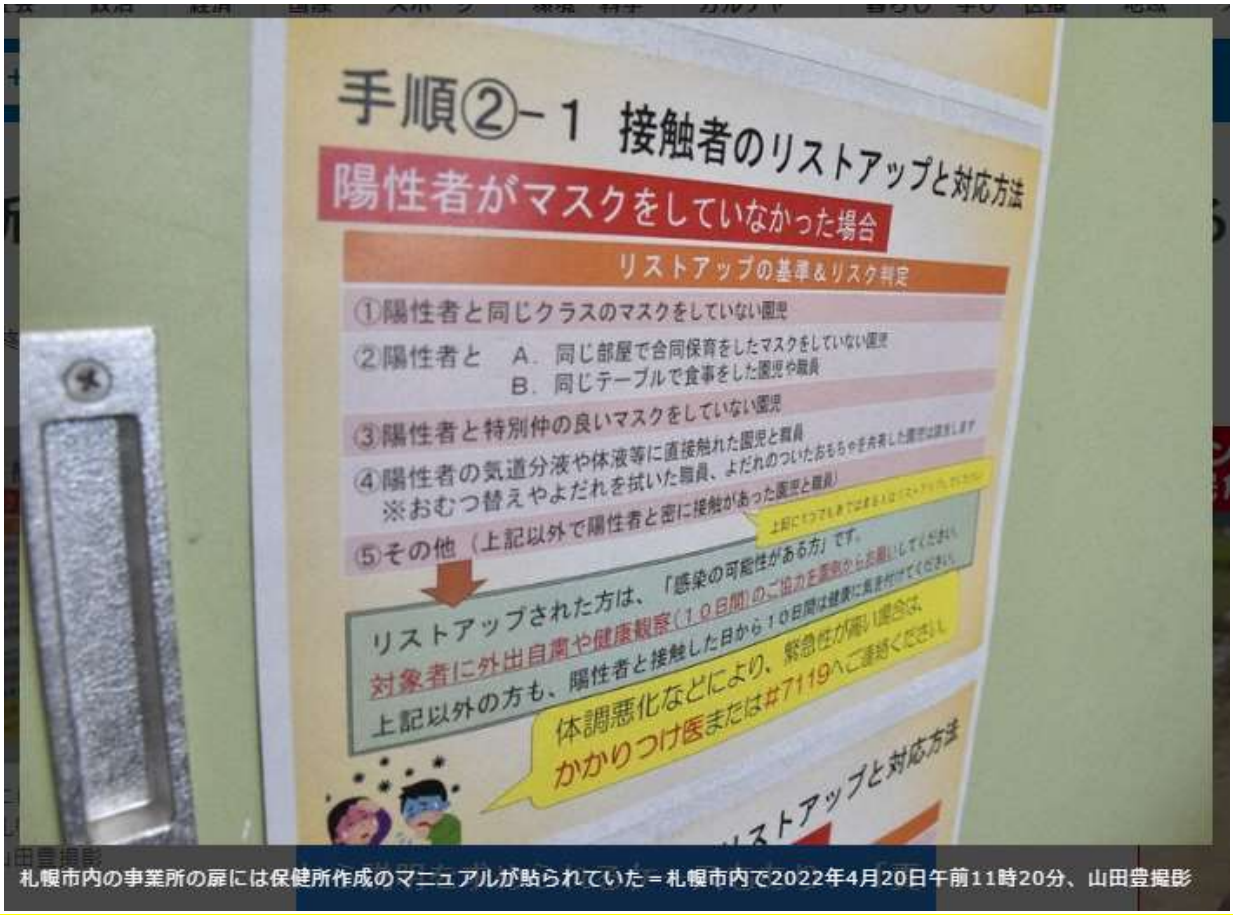
「適切な判断」「責任転嫁か」　濃厚接触者の特定に揺れる事業者

2022 年 5 月 8 日毎日新聞



札幌市内の事業所の扉には保健所作成のマニュアルが貼られていた＝札幌市内で2022年4月20日午前11時20分、山田豊撮影

幼稚園や保育園で職員や園児が新型コロナウイルスに感染した際の対応について、札幌市は第 6 波で感染者が急増した今年 1 月ごろから、濃厚接触者の特定を各事業者に委ねている。事業者からは「より的確に濃厚接触者の判断ができるようになった」と歓迎の声が上がる一方、認定を巡り保護者から説明を求められるケースもあり、「責任を押し付けられているようだ」との不満も漏れる。

「本日発熱でお休みした職員が陽性となりました」「園児一人が陽性です」。4 月中旬、市内で保育園などを運営する法人関係者のスマートフォンに、各園から次々とチャットで報告が届いていた。園関係者の 40 代男性は「今も断続的に園児や職員の新規感染が確認されている。4 月中に 2 回休園したところもある。職員の確保も大変だが、親が働ける環境を維持するためにも、幼稚園や保育園は開ける努力をしなければならない」と語る。

市保健所によると、市内では今年 1 月以降、変異株「オミクロン株」の感染者が急増。クラスター（感染者集団）の相次ぐ発生で業務が逼迫（ひっぱく）していることを理由に、これまですべてのクラスターで実施していた濃厚接触者の追跡調査を高齢者施設や病院などに限定した。保健所の担当者は「クラスターが多発し、手が回らなくなった。命を守るため重症化リスクが高い高齢者施設や病院などを優先せざるを得ない状況だ」と話す。

この方針転換により、追跡調査の対象から外れた保育園などでは、濃厚接触者に当たる人がいないか、自力で判断せざるを得なくなった。

濃厚接触者の特定が当事者に委ねられたことで、一部からは「以前は陽性者とほとんど接触がなかった職員まで濃厚接触者とされて、閉園したこともあった。現場を知らない保

健所に判断されるよりも、より適切な判断ができるようになった」と歓迎する声が上がる。

一方で、不満も噴出している。保健所が濃厚接触者を特定するために各園に配布したマニュアルでは、まず陽性者がマスクをしていたかどうかを確認したうえで、同じテーブルで食事していたかなど複数の特定基準を示している。だが手順の最後には赤字で「対象者に外出自粛や健康観察（10 日間）のご協力を園側からお願いしてください」と記されており、ある園関係者は「濃厚接触者の特定についての責任を現場に取らせようとしているようにも感じる。これまでも行政の方針が変わるたびに対応に追われてきた。この 2 年で『行政不信』が生まれた」と話す。

実際にある園児を濃厚接触者に当たると判断し、外出自粛を求めたところ、保護者から「なぜうちの子供が濃厚接触者なのか。登園させてほしい」などの問い合わせがあったという。関係者は「保護者の気持ちも分かるが、こちらの状況も分かってほしい。行政も保護者らの理解を得られるように、さらなる周知を図ってほしい」とため息を漏らした。【山田豊】